

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 主な分析

- 「学校生活（学習・部活動等）に充実感・満足感を持っている。（共通）」
生徒、保護者、教職員ともに肯定的評価が80%を超えており、高い評価が得られている。学校行事や部活動等、生徒が積極的に取り組む姿が結果につながっていると考えられる。また、研究活動やボランティア活動は本校の強みとなっており、進路決定にも結びついている。
- 「授業は充実している。（共通）」
生徒の肯定率は3学年とも90%を超えるなど、非常に高い評価が得られているが、公開授業等での保護者の出席率の低さや機会の少なさが保護者の低い評価につながっていると考えられる。今後は、保護者への発信を充実するとともに、家庭学習時間の充実を目指していく。
- 「学校の生徒指導は適切である。（共通）」
生徒、保護者、教職員ともに評価が高い。日頃の教員の丁寧な生徒指導の結果が現れていると考えられる。また、生徒と教員との良好な関係が構築されていることも結果につながっている。
- 「学校は自分の適性・能力に合った進路指導をしてくれている。（共通）」
年間5回の面接週間をはじめ、生徒一人一人に適切な指導・助言がおこなわれていることもあり、生徒・保護者ともに高い評価を得られている。全学年で検討会をおこない、保護者へ対しても助言ができている。また、3年生に対しては、受験指導に対して全教員で取り組むなど、学校全体でサポートする体制が整えられている。
- 「悩んだり困ったりした時に、親身になって相談に応じてくれる。（共通）」
担任を中心に、教育相談やスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との密な連携により、約85%の生徒は肯定的な回答が得られている。SCやSSWの相談件数は年々増加しており、今後さらに連携を深めていく必要がある。
- 「SSHの取組は課題を解決する力の向上につながっている。（共通）」
8割を超える生徒及び教職員がSSHの取組に魅力と意義を感じており、同時に課題解決力の向上につながっていると回答している。保護者については、7割弱の肯定的回答であるが、昨年度よりも約10%上がっている。今後も保護者へも十分に取組を理解してもらえるよう、発信の仕方に工夫する必要がある。

2 学校関係者評価委員名

猪木 直樹（同窓会長）	石井 享治（玉島北中校長）	大月 光星（PTA 会長）
奥田 満（ベネッセ Co）	中塚 慎治（玉島テレビ総務部長）	中塚 裕和（太陽トラベル代表）
原田 浩明（玉島商工会議所）	三木 宏之（玉島小校長）	三宅 正志（岡大大学院特任教授）
森永 聖史（玉島北中 PTA 役員）	山田 秀和（岡山大学教授）	山根 敬仁（玉島西公民館長）

3 学校関係者評価

- 地域と連携した探究活動やボランティア活動への積極的に取組は、地域でも評価が高い。また、その取組が進路の成果につながっていることは意義深い。
- 海外研修やオンライン交流など国際交流が目覚ましい。中学生や地域に向けてもっとアピールが必要である。
- SSHのV期に向けた文理融合やSTEAM教育の考えは、現代の流れに沿ったものである。
- 今後の学校のあり方について考える「新構想プロジェクト」を中心に、学校の発展についてさらに検討を深めてもらいたい。

4 来年度の重点的な取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- SSH事業第IV期の取組を一層充実させるとともに、第V期に向け本校のあり方について検討をしていくことを継続し、先導的な取組について研究を重ねていく。
- 今年度新たに姉妹校締結した高校との連携や、海外研修の経験を踏まえて国際交流の活性化に取り組む。
- 学校運営協議会の更なる充実を図る。
- 地域を舞台にした課題研究を継続し、校内外に取組の成果を発信する。